

The Expert



平成27年6月10日発行

● 感染管理部 副部長 宮崎 泰斗 助教 (平成11年・東邦大学卒)

～すべては患者さんのために～

本年4月より吉澤定子講師の後任として感染管理部副部長に着任いたしました。これまでは東邦大学医療センター大森病院の総合診療内科、呼吸器内科、感染症科にて診療に従事して参りましたので業務内容が大きく変わりますが、目指すところはあくまで患者さんのために尽くす事であり根は全く同じです。院内・院外を問わず多様な感染症から患者さんを守るため、館田一博部長のもと感染管理部のメンバーは一丸となり自らの役割を果たして参ります。

現代の患者さんや医療者は、これまで経験してこなかった耐性菌・輸入感染症などの脅威にさらされております。社会の高齢化や医療の進歩により易感染者が増える、国際交流の活発化や交通網の発達により輸入感染症が増える、この流れは止められません。広域で強力な抗菌薬の開発と耐性菌の発生は私たちごっこが続いてきましたが、今後の新たな抗菌薬の開発は進んでいない実情があり、耐性菌の抑制は緊急を要する課題です。

ひとたび院内感染や治療合併症としての感染症が発生すれば、患者さんの生命が危険にさらされるだけでなく、その患者さんのため熱心に診療・手術やケアを行った医療者の努力や想いも全て無にさせていただきます。これは大変不幸な事態です。

また、職業感染防止も我々の重要な任務です。医療者が患者さんに尽くした為に感染を受けてしまう悲しい事態は避けなければなりませんし、それを許せば感染拡大の原因にもなってしまいます。また、職務により感染症に罹患する危険が高くなれば、感染症を保有する患者さんが正当な医療を受けられなくなる可能性が増え、最終的に不利益を被るのはやはり患者さん方という事にもなります。

安全で質の高い医療を患者さんへ提供するために、これらの問題を未然に防ぎ、万一発生した場合には迅速に対応できるよう、我々は日々努力して参ります。

しかし感染症対策は一つの病院で完結できる問題ではありません。地域や行政の方々、さらには世界の中で協力し合い取り組んで行かなければ達成する事ができません。とくに地域の先生方には我々から御相談をさせて頂く事も多いと思われまますし、もし感染症診療や感染対策について困った事がありましたら、いつでも御相談を頂きたいと考えております。

幸いにも我々感染管理部は大森病院内の各科・各部署だけでなく、医学部微生物感染症学講座や大橋病院・佐倉病院の感染管理部門、羽田空港クリニック、看護学部、薬学部なども円滑に連携できております。地域の先生方との連携も積極的に行っており、より一層関係を深めて地域や患者さんのために尽くしていきたいと考えておりますので、ご協力・ご指導をよろしくお願い申し上げます。

医療機関専用電話

パートナー

03-3762-6616 (直通)

(受付時間 平日 8:30～17:00、土曜 8:30～14:00)

(休診日:第3土曜日・日曜日・祝祭日・年末年始・創立記念日6/10)



東邦大学医療センター大森病院
Toho University Omori Medical Center
〒143-8541 東京都大田区大森西 6-11-1
03-3762-4151 (代表)
<http://www.omori.med.toho-u.ac.jp/>
発行元：地域医療支援センター